

令和5年7月21日

令和5年

第7回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和5年7月21日（金曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史		教育長
三 留 利 夫	委 員	教育長職務代理者
弘 瀬 知江子	委 員	
高 橋 幸 子	委 員	
深 澤 佳 己	委 員	
北 内 英 章	委 員	

2 出席職員（13名）

教育総務部長		今 井 健太郎
参事（教育施設担当）		河原田 光
教育総務課長		鈴 木 孝 司
教育施設担当課長		田 中 佑 典
副参事（教育施設調整担当）		小 池 武 道
副参事（教育地域力担当）		長 岡 誠
学務課長		大 竹 豊 和
指導課長		細 田 真 司
学校支援担当課長		鈴 木 啓 介
教育センター所長		早 田 由香吏
大田図書館長		後 藤 清
指導課 統括指導主事		古 川 大 輔
指導課 指導主事		折 田 和 宙

3 日程

日程第1 令和6年度使用小学校教科用図書調査委員会からの報告

日程第2 「議案審議」

第26号議案 令和4年度おおた教育ビジョンの事業実績と評価について

~~~~~

(午後 2 時 00 分開会)

○教育長

ただいまから、令和 5 年第 7 回教育委員会定例会を開催いたします。

本日は、教科用図書調査委員会からの報告がございますので、大田区教育委員会会議規則第 14 条によりまして、山本秀一教科用図書調査委員会副委員長及び教科書採択関係職員の出席も求めています。

本日は、傍聴希望者の方がいらっしゃいます。大田区教育委員会傍聴規則第 7 条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または、拍手その他の方法により、公然と可否を表明することは禁止されておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、これより審議に入ります。

本日の出席委員数は、定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に弘瀬委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第 1 について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第 1 は、令和 6 年度使用小学校教科用図書調査委員会からの報告でございます。

○教育長

それでは、令和 6 年度から使用する小学校教科用図書の調査報告について、教科用図書調査委員会山本副委員長から、前半は、国語、書写、社会、地図、算数、理科について報告していただき、5 分間の休憩を挟んで、後半は、生活、音楽、図画工作、家庭、保健、英語、道徳について報告をお願いいたします。

○山本副委員長

それでは、報告書の 1 ページをご覧ください。教科用図書調査委員会は、5 月 12 日の第 1 回から 7 月 5 日の第 3 回にわたり、採択対象となる教科書について慎重に調査検討を行い、教育委員会の採択審議に関わる調査資料を取りまとめましたので、本日、報告書を提出いたします。

教科用図書調査委員会の調査研究及び審議検討にあたりましては、教科用図書資料作成委員会が作成した調査資料に基づき、また、学校意見及び区民意見も含めて、公正かつ適正に審議検討を進めてまいりました。

この内容について概要を報告いたします。

第一に、調査対象の教科用図書は、文部科学省検定済みであり、内容面や人権上の配慮等については、十分に検討されており、どの教科用図書が使用されても、学習指導要領に示された教科の目標が達成できるという前提で協議いた

しました。

第二に、本委員会では、資料作成委員会報告書、学校意見、区民意見の三者を基礎資料にして、その妥当性を確認しながら、委員の調査資料に基づき、検定済み教科用図書についての特徴を整理いたしました。

第三に、本委員会における調査は、大田区教科用図書採択要綱実施細目に示された、内容のおさえ方、構成・分量、表現、使用上の便宜の四つの観点から実施し、教育委員会における採択事務が、適切かつ円滑に行われるよう、大田区の児童の実態を考慮しながら、客観的に報告できるように努めました。

第四に、6月1日から6月30日までの期間中、教科書展示会場に641名の区民の皆様にご来場いただくとともに、ご意見をいただきました。

また、学校意見は、小学校全59校及び館山さざなみ学校から出され、それぞれの教科用図書についての細かな意見が出されているので、貴重な資料となりました。教科指導の専門家としての見方を尊重しつつ、また、資料作成委員会との整合性にも配慮しつつ、協議を進めました。

以上が概要です。

それでは、国語です。国語の教科用図書につきまして、ご報告いたします。報告書の2ページをご覧ください。

まず、内容のおさえ方についてです。

「東書」、東京書籍は、学習の内容や学習の見通し、学習の流れを児童が一目でつかむことができるよう工夫されています。

「教出」、教育出版は、言葉の文化として、ことわざ、慣用句、故事成語、十二支、落語、人形劇などを取り入れ、語彙や言葉の知識を増やす工夫がなされています。

「光村」、光村図書出版は、環境問題、デジタル社会、日本の伝統的な内容、日本の昔の話、戦争教材、ファンタジー、海外が舞台の物語などをバランスよく扱っています。

次に、構成・分量についてです。

「東書」の各領域の平均配當時数の割合は、知識・技能 11%、話す・聞く 14%、書く 35%、読む 40%となっています。

「教出」の各領域の平均配当実数の割合は、知識・技能 18%、話す・聞く 15%、書く 34%、読む 33%となっています。

「光村」の各領域の平均配當時数の割合は、知識・理解 10.5%、話す・聞く 13.5%、書く 37%、読む 39%となっています。

次に、表現についてです。「東書」は、掲載してある挿絵や資料を大きく、目を引くものとなっています。

「教出」は、活字は教科書体で、巻末の漢字一覧は、硬筆の教科書体となっています。

「光村」は、掲載してある挿絵や資料が、教材文の内容に応じたものや資料、風景や登場人物の表情となっており、児童が文章から想像したり、内容を適切に理解するための補助となっていたりしています。

次に、使用上の便宜です。

「東書」は、二次元コードが他社よりも多く、第4学年で111点です。その内容は、言葉の力、小学校で習う漢字、練習問題、動画やアニメーションでの言語活動の見通しであり、児童の個別最適な学びに向いています。

「教出」は、各学年の上巻に掲載されている、「ひろがる読書の世界」で、読書クイズや読書マップなどが提示されており、幅広いジャンルの本を知る手掛かりとなる工夫がされています。

「光村」は、国語の学び方、1年間の見通しと既習事項の確認をすぐに確かめることができるページが、ブックインブックという形で掲載されています。

最後に、その他として学校意見では、「光村」に次いで「東書」に肯定的な意見が多くあります。

次に、国語の教科用図書につきまして、書写についてご報告いたします。報告書の3ページをご覧ください。

まず、内容のおさえ方についてです。

「東書」は、鉛筆の持ち方で右利き、左利きの持ち方、構え方の写真が同サイズで載っています。

「教出」は、身に付けた書写の力を学習活動のどの場面で生かせるのかについて、児童自身が見いだせる場面を「レッツ・トライ」で示し、他教科と連携した指導ができるようになっています。

「光村」は、鉛筆の持ち方について写真とイラストの二つが載っており、イラストは、自分が鉛筆を持った手と比べられるようになっています。

次に、構成・分量についてです。

「東書」の毛筆手本数は、第3学年9教材（うち書初2）、第4学年9教材（うち書初2）、第5学年7教材（うち書初2）プラス小筆1教材、第6学年7教材（うち書初2）プラス小筆1教材となっています。

「教出」の毛筆手本数は、第3学年9教材（うち書初2）、第4学年11教材（うち書初2）、第5学年9教材（うち書初2）、第6学年10教材（うち選択4、書初2）プラス小筆1教材となっています。

「光村」の毛筆手本数は、第3学年12教材（うち書初4）、第4学年11教材（うち書き初め4）、第5学年10教材（うち書初4）、第6学年9教材（うち書初4）プラス小筆1教材となっています。

次に表現です。

「東書」は、左払いと右払いの筆圧の違いが赤から黒の色のグラデーションで示されています。

「教出」は、手本のページの位置が左ページにある場合と右ページにある場合で様々です。

「光村」は、字を書く際の大切なポイントがオレンジ色で示されており、分かりやすい配色になっています。

次に、使用上の便宜についてです。

「東書」は、具体例から学べるよう、児童が書いてしまいそうな文字と整っ

た文字を比較できるように示されています。

「教出」は、国語教材を書写で視写することで内容を深く味わうとともに、豊かな言語感覚を養うなど、国語力育成のために言葉、活用、文化の観点で教材化しています。

「光村」は、補助教材として、二次元コード総コンテンツ数363点で、他の教科書と比べると一番多く載せられています。内訳は、動画101点、アニメーション8点、写真222点、補充教材27点、参考資料5点となっています。

最後に、その他として、学校意見では、「光村」に次いで「東書」に肯定的な意見が多くあります。

国語についての報告は、以上です。

次に、社会科の教科用図書につきましてご報告いたします。報告書の4ページをご覧ください。

まず、内容のおさえ方についてです。

「東書」は、第5学年「これからの工業生産とわたしたち」に、大田区のまち工場が事例地として掲載されています。また、「工業生産を支える運輸と貿易」に、京浜トラックターミナルが掲載されています。

「教出」は、第4学年の「廃棄物を処理する事業」に、大田区の清掃工場や埋め立て処分場が掲載されています。第5学年の「運輸の働き」に、大田区のトラックターミナルが掲載されています。「日本の工業生産の特色」では、大田区の中小工場が掲載されています。

「日文」、日本文教出版は、第4学年の学習資料「下水のしよりと再利用」に森ヶ崎水再生センターが掲載されています。

次に、構成・分量についてです。

「東書」は、第3・4学年は合冊。5年は上・下で分冊、6年は歴史編、政治・国際編で分冊となっています。

「教出」、「日文」は、全学年とも合本となっています。

「東書」は、学習過程が全ての学年で、「つかむ」「調べる」「まとめる」あるいは「いかす」で構成され、学習を進める上での学びの手順を明確に示しています。

「教出」は、第5学年で児童一人一人が資料を選び、ポイントを手がかりに読み取る「自分で調べて考えるページ」を設け、学習の活性化を促しています。

「日文」は、関係があると思ったSDGsシールを貼ったり、自分で考えたりするページがあり、SDGsを自分ごととして捉えられるように工夫しています。

次に、表現についてです。

「東書」は、第3学年と4学年の巻末に教科書に登場した都道府県と言葉を掲載しています。

「教出」は、キャラクターが男女3人ずつ登場しています。そのうち一人は外国人であり、もう1名は、車いすに乗っています。

「日文」は、巻末にあいうえお順で作品を掲載しています。キーワードと国

名が分かれており、第6学年では、ことがらと人名でも分かれていきます。

次に、使用上の便宜についてです。

「東書」は、各単元で二次元コードを読み取って使用するコンテンツを用意し、動画やクイズを見ることができるようになっています。また、ワークシートやデジタル資料も掲載されています。

「教出」は、「まなびリンク」という学習に役立つデジタルコンテンツにつながる二次元コードが示されており、インターネットを活用した学習ができるようになっています。

「日文」は、二次元コードを読み取って使用するコンテンツを用意し、「見方・考え方」のアドバイスやコラム（学習に役立つ資料）の詳細を載せています。また、ワークシートを Word 形式と Google ドキュメント形式の2種類を用意しています。

最後に、その他として、学校意見では、「東書」に次いで、「教出」に肯定的な意見が多くあります。

社会科の教科用図書につきまして、地図についてご報告いたします。報告書の5ページをご覧ください。

まず、内容のおさえ方についてです。

「東書」は、首都東京の5万分の1の地図で3ページの大きさの中に、大田区の蒲田付近、羽田空港まで掲載しています。また、日本の周りの国は、国旗を用いて5か国掲載しており、国の領土と海について説明しています。

「帝国」、帝国書院は、「日本の首都・東京」の5万分の1の地図には大田区は掲載されていませんが、「東京都とそのまわり」という20万分1の地図には、大田区の地名とまち工場のイラストが掲載されています。日本固有の領土である北方領土、竹島、尖閣諸島の写真を掲載し、周りの国は、国旗を用いて14か国掲載しており、国の範囲と領土について説明しています。「東書」、「帝国」ともに、領土問題に関して、東西南北の端にある地域4か所を写真入りで説明しています。

次に、構成・分量についてです。

「東書」は、第3学年の地図の導入として、「空からまちをみてみよう」で、地図は、地表を上から見たものであることを表しています。「地図のきまり」「地図帳の使い方」が計8ページ掲載されています。

「帝国」は、第3学年の地図の導入として、「地図の世界へようこそ」というタイトルで地図についての説明が14ページあり、「地図は土地の様子を上から見たもの」や「地図帳の使い方」などが掲載されています。

次に、表現についてです。

「東書」は、巻頭の世界地図に、第3学年の外国語活動でも使えるように「世界のありがとう」が掲載されています。15か国の国旗、国名と言語、人物が表されており、登場人物は民族衣装を着ています。

「帝国」は、巻頭の世界地図に、第3学年の外国語活動でも使えるように、「世界のこんにちは」が掲載されています。11か国の国旗と児童が表されてお

り、登場人物は、民族衣装やスポーツをしている姿で表しています。

次に、使用上の便宜についてです。

「東書」は、二次元コードを読み取ることで、白地図、外部サイトへのリンク、ドローン動画やクイズ、到達度を計るための「がんばりシート」などが活用できます。児童が自分で地図を読み取ったり、作業をしたりするための問題「マップでジャンプ」コーナーが70個あります。

「帝国」は、二次元コードを読み取ることで、より詳しい情報が掲載しているサイトや白地図とワークシートを利用できるようになっています。このサイトには、資料や動画を掲載しています。また、クイズ形式の「トライ」を11問、学年別の「地図マスターへの道」を100問配し、地図の読取に活用できます。

最後に、その他として、学校意見では、「帝国」に次いで「東書」に肯定的な意見が多くあります。

社会についての報告は、以上です。

次に、算数科の教科用図書につきましてご報告いたします。報告書の6ページをご覧ください。

まず、内容のおさえ方についてです。

「東書」は、学校や日常の生活を想起できるような場面を取り入れています。

「大日本」、大日本図書は、「新しい学習がはじまるよ」という導入ページで、既習事項とのつながりから学習が始められるようになっています。

「学図」、学校図書は、「つまずきやすいところ」「つまずきにくくする方法」を示した「算数パトロール隊」や、学習したことを分かりやすくまとめた「考え方モンスター」が設定されており、児童の意欲を引き出す工夫があります。

「教出」は、第6学年「並べ方と組み合わせ」では、ピアノの鍵盤を用いたドレミ3音の組合せ方、第4学年「2けたの数のわり算」では、実際に児童が折ることのできる折り紙の冠を示し、算数以外の学習と関連付けやすい導入にしています。

次に、構成・分量についてです。

「東書」、「大日本」、「日文」は、単元の最初の課題が右ページにあることで、児童が、まずは、自分で考えることから学習が始められる工夫があります。

「啓林館」は、巻末の「学びのサポート」の中に、既習確認のための「じゅんぴ」がまとまっており、単元の導入時にアクセスできるようにしています。

「日文」は、単元末に3段階の補充問題、巻末に習熟度別の補充問題があります。

次に、表現についてです。

「学図」は、問題解決的な学習の流れが、「はてなを探そう」「めあて」「まとめ」「できるようになったこと」「学びを生かそう」「ふりかえろう」という一貫性のある記述になっています。

「啓林館」は、第4学年の「垂直・平行と四角形」で、垂直な直線の描き方や平行な直線の描き方が、実際の写真で示されており、直線の描き方が順序立てて、分かりやすく掲載されています。



次に、使用上の便宜についてです。

「東書」、「学図」は、第6学年のみ、「教出」、「啓林館」、「日文」は、第5、6学年、「大日本」は、第2から第6学年を合本にしています。

「東書」、「大日本」、「啓林館」は、第1学年の1分冊を大判化し、入門期に、児童が数を数えて書くことやブロックを使った数学的活動をしやすくしています。

「大日本」、「学図」、「啓林館」、「日文」は、全学年でプログラミング学習に関するページを設けています。

「東書」は、第5、6学年で、プログラミング学習に関するページを設けています。

「教出」は、第1、2、4、5学年でプログラミング学習。第3、6学年で表計算ソフトを活用した学習のページを設けています。

最後に、その他として学校意見では、「東書」に次いで、「啓林館」に肯定的な意見が多くあります。

算数についての報告は、以上です。

次に、理科の教科用図書につきましてご報告いたします。報告書の7ページをご覧ください。

まず、内容のおさえ方についてです。

「大日本」は、各単元末に知識・技能の定着を図る問題や、活用する力を育てることができる問題を掲載し、巻末に、全国学力・学習状況調査の分析結果に基づく課題を意識した問題を扱っています。

「学図」は、各単元末に、「もっとしりたい」という見だしで、学習内容と暮らしや技術との関わりについて掲載しています。

「教出」は、各単元末にある「たしかめよう」で、基本的な問題を掲載して、発達の段階に応じて必要な知識・技能が身に付くようにしています。自然の事物・現象との結びつきについて、「啓林館」は、各単元に「理科の広場」、または、「くらしとリンク」が掲載してあり、理科と実生活との関わりを紹介しています。

次に、構成・分量についてです。

「東書」は、全学年ページが減り、映像資料の活用に移行しており、重量面と情報面において、児童の負担を軽減できるよう考慮しています。

「大日本」は、問題解決型の学習をゆとりある計画にできるよう、時数に工夫をしています。

「学図」は、学年の発達の段階に応じた学び方を「理科モンスター」という様々なキャラクターを使って紹介し、各単元において身に付ける力を意識しながら、学習を進められるようにしています。

「教出」は、問題解決の力や学習内容を確認できるように、「見方のカギ」「考え方のカギ」という見だしで、理科の見方・考え方の考え方を紹介しています。

次に、表現についてです。

「東書」は、各ページの左側に「学びのライン」を矢印で示し、問題解決の学習過程を読み取りやすくしています。

「学凶」は、観察・実験等の場面で、くらしや防災とのつながりを掲載し、安全に対する意識を高めるようにしています。

「教出」は、全ての単元で「見つけよう」という見だしで、自然の事物・現象から問題を見だし、問題解決の学習過程に沿って学習を進め、学習後に「ふり返ろう」「たしかめよう」で知識・技能の定着を図る、一貫性のある学習活動を計画しています。

「啓林館」は、全学年、学習内容とSDGsの関連を紹介するページを設け、4年間で一貫してSDGsを意識できるよう配慮しています。

次に、使用上の便宜です。

「東書」では、二次元コードからアクセスできるコンテンツの総数は、第3学年約220個、第4学年約250個、第5学年約230個、第6学年約260個用意しており、ドローンで撮影したダイナミックな動画や360度見渡せるパノラマ動画などの映像資料にアクセスできるようにしています。

コンテンツ数最多の「大日本」では、各ページの下部に二次元コードを配置し、学習に関連する映像資料などの学習コンテンツ全1,175個へ、スムーズにアクセスできるようにしています。

「啓林館」では、プログラミング的思考を育む教材を多く単元で紹介しています。

最後に、その他の事項です。

「教出」では、第6学年「土地のつくり」の単元に、「地震の強いゆれにたえられるように補強した校舎」という見だしで、133ページに東京都大田区を紹介しています。

また、学校意見では、「東書」、「大日本」に次いで、「教出」の順に肯定的な意見が多くあります。

理科についての報告は、以上です。

#### ○教育長

ありがとうございました。前半の報告は、以上になります。

では、ここで5分間、2時40分まで、休憩時間とさせていただきます。

(休 憩)

#### ○教育長

それでは、再開いたします。

引き続き、教科用図書調査委員会から令和6年度から使用する小学校教科用図書の調査報告について、報告をお願いいたします。

#### ○山本副委員長

それでは、生活科の教科用図書につきまして、ご報告いたします。報告書の8ページをご覧ください。

まず、内容のおさえ方についてです。

「東書」は、単元ごとの扉ページにこれまでの経験を想起させたりする吹き出しや、活動の見通しをもてるようにした小写真、活動に使える「活動便利手帳」のページを記載しています。

「大日本」と「啓林館」は、教科書へ書き込めるページがあり、プリントの整理が苦手な児童にとって記録を残しやすくなっています。

「教出」は、学習の始まりが「わくわくスイッチ」という、どの児童にも当てはまる選択肢を選んでいくスタイルで、児童の経験や期待感から単元を始められる工夫がされています。

「光村」は、学習の深まりに応じて、児童が繰り返し学習材と関わりたいという思いをもつことができるように工夫されています。

次に、構成・分量についてです。

「東書」は、他教科で身に付けた資質・能力を生かす場面を、教科名を明記して具体的に例示しています。中学年以降への接続として、絵地図、鳥瞰図や自然の規則性・多様性につながる見方・考え方の例示が掲載されています。

「大日本」は、町探検の学習を春と秋に分け、その間の関わりも含めて、秋に発展的に学習を深めていけるなど、時間の経過と児童の成長を考慮して構成されています。

「学図」は、各単元の終末に、「もっとつたえたいな」「もっとそだてたいな」など、より深い学びの手掛かりとなるページが配されています。

「啓林館」は、「わくわく・いきいき・ぐんぐん」の3段階に分けて構成されていて、学びが繰り返し深まるようになっています。

次に、表現についてです。

「東書」は、小単元のページに教師の発問例と評価基準を示すマークが明示してあります。教師が指導と評価の一体化が目指せるように工夫してあります。

「学図」は、上巻の学校探検の単元では、「理科室にもう一度行ってみよう」と記述するなど、児童が繰り返し対象と関わってもよいことに気付けるよう配慮されています。伝え合いの学習ページでは、児童が話す言葉の冒頭だけが記され、児童がそれを手掛かりにできるよう配慮されています。

「光村」は、「こんなこともあるかもね」「こんなのもいいかもよ」などのタイトルで、児童の学習過程や実生活の中で生じうる気づきや失敗、困り感を取り上げた絵本作家の方の漫画があります。児童が楽しみながら考えを深めることができるようになっています。

「啓林館」は、「六郷のとんびだこ」「蒲田警察署」「大田区の児童館」の写真が載っており、大田区の児童にとって親しみやすくなっています。

次に、使用上の便宜についてです。

「光村」は、各見開きページ右下の「ふりかえろう」に振り返りの視点のほか、「こんなことはあったかな」として、振り返りのきっかけにしやすい活動の

ヒントが示されています。

「教出」は、生活科で学んだ力をどうつなげるかについて、総合的な学習の時間、外国語活動、理科、社会科を例に出してまとめています。生活科で学びが完結するのではなく、次の学年に向けて見通しがもてる工夫がされています。

「東書」は、「かつどうべんりてちょう」や「生きもの図かん」。

「大日本」は、「がくしゅうどうぐばこ」。

「学図」は、「学び方図かん」。

「教出」は、「学びのポケット」。

「光村」は、「ひろがるせいかつじてん」。

「啓林館」は「びっくりずかん」「がくしゅうずかん」など、巻末や単元の間に資料ページが掲載されています。全者とも二次元コードのコンテンツを使ってさらに豊富な資料を閲覧することができます。

最後に、その他として、学校意見では、「学図」「教出」「啓林館」に肯定的な意見が多くあります。

生活についての報告は以上です。

次に、音楽科の教科用図書につきまして報告いたします。報告書の9ページをご覧ください。

まず、内容のおさえ方についてです。「教出」は、各題材の「めあて」の内容と、扱う音楽を形づくっている要素「音楽のもと」を関連付けて学習内容を示しています。「教芸」、教育芸術社は、見通しをもって活動できるように、題材のねらい、学習活動、学習の流れが見開きで示されています。

次に、構成・分量についてです。「教出」は、一題材で扱う教材を絞り、題材で取扱う要素に着目できるように重点化しており、児童の発達の段階を考慮して、無理なく取り組めるような楽曲が選出されています。「教芸」は、全題材が異なる領域・分野で順序立てて系統的に構成されています。巻末には、楽曲が7から11曲掲載されており、題材によって教材を差替えて、学習を深めることができるようになっていきます。また、SDGsの視点による歌唱教材が選択され、道徳教育、人権教育にも配慮した題材構成になっています。

次に、表現についてです。「教出」は、重要な言葉を色分けし、めあてを明確にしています。また、見開きや折り込み写真により、曲想や歌詞の表す情景を捉えやすくしています。「教芸」は、題材ごとに色分けされているので、まとまりが分かりやすくなっています。また、題材の目標や学習活動などの記載の仕方が一貫しており、どの題材も見通しをもって学習に取り組むことができます。

次に、使用上の便宜についてです。「教出」は、学習のめあての重要な言葉を大きくしたり、文中の改行位置を調整したりするなど、特別な支援を必要とする児童への配慮がなされています。「教芸」は、各学年の巻頭の「学習マップ」で、1年間でどのような学習をするのかが視覚的に分かりやすく示しており、学習全体の構成や見通しがもてるように工夫されています。

最後に、その他として、「教出」は、鍵盤ハーモニカの写真を1オクターブ

約 13 センチという実寸に近いサイズで掲載し、運指の仕方は実際の手の写真で示しているため分かりやすくなっています。「教芸」は、鍵盤ハーモニカの写真を1オクターブ約 10 センチで掲載し、運指の仕方はイラストで示しています。「教出」は、掲載場所は様々ですが、6年間で約 70 項目の二次元コードを記載しています。「教芸」は、取り扱うほぼ全ての楽曲をデジタルコンテンツ化しており、教科書右上に6年間で約 370 項目の二次元コードを記載しています。個別最適な学びのサポートとしてのコンテンツは「教芸」のほうの数が多く、種類も豊富です。

学校意見では「教芸」、次いで「教出」に肯定的な意見が多くあります。

音楽についての報告は以上です。

次に、図画工作の教科用図書につきまして、ご報告いたします。

報告書の 10 ページをご覧ください。

まず、内容のおさえ方についてです。「開隆堂」、開隆堂出版は、学習のめあてを簡潔に示し、重要視する項目を赤字で強調するとともに、その項目に関して、学習を深めるポイントやヒントをキャラクターの吹き出しで示しています。「日文」は、学習のめあてを具体的に示すとともに、吹き出しや作品に付したコメントで、児童の考えや発想・構想のプロセスを示しています。

次に、構成・分量についてです。「開隆堂」は、全題材のうち、「工作」が 36% 程度、「造形遊び」10% 程度。「日文」は、全題材のうち、「工作」が 17% 程度、「造形遊び」が 20% 程度と、題材の内容が占める割合のうち、「開隆堂」は「工作」が、「日文」は「造形遊び」が相対的に多いという特徴があります。「開隆堂」は、題材ごとに「あわせてまなぼう」という形で、他の教科との関連性が具体的に示されています。「日文」は、表現と鑑賞を一体的に扱える設定となっています。

次に、表現についてです。「開隆堂」は、写真やイラストを大きく掲載するとともに、活動の手順どおりに並べ、枠線の中にまとめて表してあり、仕組みのつくり方や技法などが分かりやすく示されています。「日文」は、手元のアップ写真が多く掲載され、題材内容が視覚的に理解できます。また、「日文」は、「環境」「安全教育」「言語活動」「防災」「SDGs」等、今日的な諸課題への対応を考えた資料が掲載されています。

次に、使用上の便宜についてです。「開隆堂」は、二次元コードでリンクしているデジタルコンテンツの活用方法について、マークで分かりやすく示しています。また、大田区の児童に身近な西六郷公園がSDGsの教材として取り上げられています。「日文」は、アニメーション、鑑賞などの題材と関連付けたアプリケーションが、活用しやすい形で用意されています。また、5事例のプログラミング活動を掲載しています。

最後に、その他として、学校意見では「日文」、次いで「開隆堂」に肯定的な意見が多くあります。

図画工作についての報告は以上です。

次に、家庭の教科用図書につきましてご報告いたします。

報告書の 11 ページをご覧ください。

まず、内容のおさえ方についてです。「東書」は、生活時間の学習において、「朝食の役割」について学んだ後、炒める調理を学習することで実践につなげる流れにしておき、本区で定める「早寝・早起き・朝ごはん」月間と関連した指導を行うことができます。また、家庭科に関連する職業の人へのインタビュー記事「プロに聞く」を 10 か所にわたって掲載し、仕事や生活への興味が高まるよう工夫しています。「開隆堂」は、「いためる調理」の学習の後で、「朝食の必要性」を学習する流れになっており、学んだことを生かして自身の生活を見直す流れとなっています。キャリア教育との関連については、各単元に学習内容と密接につながる職業の方々からの「キャリア・インタビュー」が掲載されていることに加え、SDGs との関連を加えた特集ページを巻末に設けています。

次に、構成・分量についてです。「東書」は、二次元コードの読み取りによるデジタルコンテンツは動画、実習シート、活動「深めよう」で使えるワークシートから構成されています。また、「東書」は、「トライシート」という名称で思考ツールが各題材に収録されています。「開隆堂」は、二次元コードの読み取りによるデジタルコンテンツは動画コンテンツ、記入カード、資料 PDF、その他視覚資料から構成されており充実しています。

次に、表現についてです。「東書」は、玉どめ、玉結びにおける失敗例が写真で示されており、児童が自身に技能を客観視し、主体的に技能の向上ができるよう工夫しています。また、「東書」は、巻頭の安全に関する資料が充実しており、基礎的・基本的な技能の大切なポイントは、巻末の「いつもたしかめよう」の部分にまとめています。「開隆堂」は、基礎的・基本的な技能のポイントが、巻末に見開きで掲載されています。また、イラストの人物表現について、多様性を受容し、共に生きる社会づくりへの配慮をしています。学習者用タブレット端末も用いた学習活動を例示するイラストや写真が多く示されており、2年間を通じた活用を促す表現となっています。

次に、使用上の便宜についてです。「東書」の巻頭にある「成長の記録」は、家庭科という教科のガイダンスで活用できるとともに、各題材の学習後に記入することで2学年を通じたポートフォリオとなります。「開隆堂」は、題材の提示順に柔軟性があり、各学校や児童の実態に応じて年間指導計画を設定しやすい工夫をしています。

最後に、その他として、学校意見では「開隆堂」、次いで「東書」に肯定的な意見が多くあります。

家庭についての報告は以上です。

次に、保健の教科用図書につきましてご報告いたします。

報告書の 12 ページをご覧ください。

まず、内容のおさえ方についてです。「東書」は、単元ごとに資料を記載しており、発展内容や身につけると役立つスキルをまとめています。「大日本」は、単元の最初のページに何について学習するかを記載しています。「大修

館」、大修館書店は、単元の扉ページに著名人の写真やインタビューを大きく掲載しており、児童の関心をひきやすくしています。「文教社」は、イラストで思春期の体の変化を表しています。「光文」、光文書院は、単元の最初のページに課題等を4コマ漫画で記載しています。「学研」は、各小単元の導入ページに児童の生活に即した大きい写真を使用し、学習のイメージが湧きやすいようにしています。

次に、構成・分量についてです。「東書」は、小単元を4から7ページで構成しています。「大日本」は、各小単元を2ページもしくは4ページの構成にしています。「大修館」は、各小単元を偶数ページの構成ページにしており、見開きで使用できるようにしています。「文教社」は、各小単元を第3・4学年3から5ページ、第5・6学年を4から5ページの構成にしています。「光文」は、各小単元を2ページもしくは4ページの構成にしており、見開きで使用できるようにしています。「学研」は、小単元を4ページ構成で統一しています。

次に、表現についてです。「東書」は、単元の始めにスタートから目標までの道筋を示したイラストがあり、学習の見通しがもてるようにしています。「大日本」と「光文」は、学習する内容、資料によって写真とイラストを使い分けています。「大修館」は、東京羽田ヴィッキーズの本橋菜子選手のインタビューを写真付きで掲載しています。「文教社」は、各小単元の終わりに実生活を振り返る記述欄があります。「学研」は、担任、養護教諭からのコメントをイラストと吹き出しで記載したり、児童の思いをイラストと吹き出しで記載したりしています。

次に、使用上の便宜についてです。「東書」は、目次に単元ごとのまとまりを大きく示し、学習に付随する資料を一覧にしてまとめています。「大日本」は、第3・4学年の巻末に第5・6学年に向けた目標を書く欄があり、第5・6学年の巻末に中学生に向けた目標を書く欄があります。「大修館」は、目次のほかに学習者用端末で見られるコンテンツを一覧にしています。「文教社」は、チェックボックスなどを用いています。「光文社」は、小単元ごとに背景の色を変えています。「学研」は、1ページごとに記述する欄があり、考えをまとめていくうちに、単元の中心に触れることができるようにページを配列しています。

最後に、その他として、学校意見では「学研」、次いで「東書」に肯定的な意見が多くあります。

保健についての報告は以上です。

次に、英語の教科用図書につきましてご報告いたします。

報告書の13ページをご覧ください。

まず、内容のおさえ方についてです。「三省堂」は、海外の文化についてはユニットごとに紹介されています。世界に発信できる日本の情報や、世界に目を向ける題材を通して外国語によるコミュニケーション飲み方・考え方を働かせられるようにしています。「教出」は、地図記号、特産品、世界遺産、手話

などの他教科と関連した内容があり、学習の幅を広げやすくなっています。世界に目を向けることができるように、ほとんどの単元に世界に関連した内容が掲載されています。「光村」では、単元の導入用にストーリーアニメが設定されており、児童が興味・関心を持ってコミュニケーションの目的や場面、状況を理解できるようになっています。

次に、構成・分量についてです。「東書」と「啓林館」では、Can-Do リストが別冊の巻末にあり、児童が習得すべき知識・技能、ねらいとしている思考・判断・表現の能力が児童自身でチェックできるようになっています。「開隆堂」は、問題に取り組みながら理解を深めるようになっています。6年生の最後の学習内容が“My Dream.” “My Junior High School.” となっており、児童が学習を進めながら中学校への希望を持てる構成になっています。「教出」は、5年生では Lesson が進むごとに自己から自国・他国へと目が向くようになっています。6年生では、自国から他国へ視野を広げ、将来や中学を展望する順序となっており、2学年で系統性を踏まえた内容構成になっています。

次に、表現についてです。「開隆堂」は、1 ページの中に、1 単位時間の学習活動が進められるように簡潔に表現されています。「三省堂」は、見開き2 ページの中に、1 単位時間の学習活動が進められるように簡潔に表現されています。小見出しや児童への言葉かけについて、色、フォントが統一されて、捉えやすく工夫されています。

次に、使用上の便宜についてです。「東書」のデジタル教科書では、紙媒体の教科書にはない振り仮名付きの紙面やマーカー等、学習者が使いやすくなるユニバーサルデザインの工夫がされています。「光村」は、年間3階、既習事項を活用したまとめの言語活動が設定されており、教員が児童のパフォーマンスを確認し、指導と評価の一体化を図ることができるようにしています。「啓林館」は、各ユニットの最初の2 ページは、そのユニットで定着させたい語句が並べられ、児童は、これからの学習を予想できます。また、各ステップのゴールも同じページに示されています。

最後に、その他として、学校意見では「三省堂」、次いで「東書」に肯定的な意見が多くあります。

英語についての報告は以上です。

次に、道徳の教科用図書につきましてご報告いたします。

報告書の14 ページをご覧ください。

まず、内容のおさえ方についてです。「東書」では、第6学年の自然愛護の教材には、大田区民になじみのある多摩川が取り上げられています。「教出」では、近年あらゆる分野で活躍する方々や偉人についての教材が多く掲載されています。「日文」では、「ウイルスとの戦い」として、新型コロナウイルス感染症について取材した教材が掲載されています。また、「貝塚博士」は、千葉県の加曽利貝塚を題材とした教材で、導入や終末の段階で、大田区にある大森貝塚を想起させるなど、学びを深めることができます。「学研」では、詩や漫画、ページ全体を使った写真などで表現した教材が多く取り入れられていま



す。

次に、構成・分量についてです。「教出」では、教材の30番までで全内容項目が扱えるようになっており、残り五つ（第1学年は四つ）は、補充教材として掲載されています。「光文」では、各学年で、「みんなでやってみよう」として、行動の指導につながる内容が掲載されています。6年生では、ナイスリターンとして、互いが納得するために相手が傷つかないように自分の主張を話す方法についてロールプレイする構成になっています。

次に、表現についてです。「光村」では、2年以降の最初の教材が、「道徳が始まるよ」として、オリエンテーションを行えるようになっています。3年生以降のその次の教材には、「どうとくの学び方」として、教材分を読みながら学び方を把握できるようになっています。

次に、使用上の便宜についてです。「東書」では、最後のページに、心情メーター（ものさしや円）、イメージマップ等の思考ツールが示されており、心情円は切り取って使うことができるようになっています。「光村」では、低学年、中学年はシールを貼る形、高学年は内容を記述する形で、全ての学年に1時間ごとの学びを記録するページがあります。「日文」では、道徳ノートと教科書が分冊になっており、ノートには、発問などは掲載されておらず、教師の指導観に即して発問を記入したり、作成したワークシートを添付したりすることができます。ノートは、ポートフォリオとして児童の記録及び教師の評価に活用することができます。また、一人1台端末で意見を共有したり、提出したりすることができるデータが用意されています。

最後に、その他として、学校意見では「光文」、次いで「光村」「日文」に肯定的な意見が多くありました。

道徳についての報告は以上です。

#### ○教育長

ご報告ありがとうございました。それでは、ただいまご報告いただきましたことにつきまして、ご質問はいかがでしょうか。

#### ○三留委員

私からは、総括的な質問を1点させていただきます。

一昨年3月に中央教育審議会から、「令和の日本型学校教育」の構築を目指しての答申が出されております。急激に変化する時代の中で育むべき能力に関わって、「持続可能な社会の創り手の育成」が掲げられていますが、この考え方は、先月閣議決定された国の第4期教育振興基本計画にも受け継がれております。

答申の副題として、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」がございます。

「個別最適な学び」については、指導の個別化と学習の個性化に分けて整理され、指導方法の柔軟な提供・設定、子どもの興味・関心等に応じた学習活動

や学習課題の提供などに触れています。

「協働的な学び」については、「子ども同士、あるいは、他者との協働により異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す」としています。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」に関わって、各社の教科書の特色、前回の教科書との違いについて、教科用図書検討委員会の見解をお示しいただきたく質問いたします。

#### ○山本副委員長

どの教科書も「令和の日本型教育」を前提として、個別最適な学びや協働的な学びの充実に資するものとなっています。発行者ごとに内容のおさえ方や構成等は様々であります。前回教科書に加えて、さらに具体的な学習内容、単元や題材の構成、基礎的・基本的な知識・技能の習熟方法等について研究されており、どの教科書を使用しても特段の不都合は生じないものと考えます。

個別最適な学びや協働的な学びは、これまでも各教科等における授業改善の取組の中で充実が図られてきたものであり、そうした蓄積を踏まえ、児童や学校の実態、指導の内容に応じて、学習者用タブレット端末の活用等を含めた多様な手段を用いて、個々の教員が学習活動の質をさらに改善・充実させていくことが大切であると考えております。

#### ○教育長

ほかにございますか。

#### ○深澤委員

私は、国語、社会、図画工作、英語について質問させていただきます。

まず、国語の教科書図書採択に関連して質問いたします。近年、読解力の重要性が指摘されていますが、読解力を高めるために教科書に求められるものはどのようなところでしょうか。国語に限らず質問いたします。

#### ○山本副委員長

近年、児童・生徒への育成が求められている読解力とは、文章であるかないかを問わず、内容を理解し、利用し、評価し、熟考することができる能力のことです。この力を育むためには、国語科での学習に限らず、文章や図表を幅広く読み、これらを広く学校内外の様々な状況に関連付けること等の学習活動を行うことが求められます。

そのため、例えば、国語科の教科用図書では、「大造じいさんとガン」や、「ごんぎつね」といった文学作品に児童が触れ、読み返しながら登場人物の心情等について、自身の考えを深められるような構成となっていることが重要です。

加えて、自身の考えを他者と共有し、共感や新たな視点を得られるような経験を重ねられるような教科用図書であることが望ましいと考えております。

○深澤委員

続けて、書写の教科用図書について質問します。学習において、ICTを利用する機会が増えると、文字を書く機会が必然的に減ることになります。この点において、書写に求められる役割は従前よりも大きくなると考えますが、これからの書写の教科書に必要な視点、観点について質問いたします。

○山本副委員長

書写では、正しい筆記姿勢や毛筆を紙に置く際の角度といった文字を書く技術を習得するための基礎的な知識を身につけることが求められます。

また、文字の美しさや書くことの楽しさを伝えることが大切ですので、書写の教科用図書は知識・技能に関する記載に加え、美しい字が書けたり、筆記具や文字の工夫等の楽しさに気がついたりできることが必要です。

そして、文字を書くことそのものに児童が主体的に取り組む意欲を育む課題や活動が示されていることも求められます。

○深澤委員

続いて、社会の教科用図書について質問いたします。ICTが授業に浸透してきており、授業の進め方がICTを利用した調べ学習やグループ学習等に移行し、従来と変わってきており、社会の科目ではその傾向が顕著に見受けられますが、これからどのような教科書が児童にとって有用となりますでしょうか。

○山本副委員長

はい、お答えします。学習者用端末を使うことにより、児童が一人で情報を集めることが容易になるとともに、他者との意見の共有が容易に行えるよう、ICTを活用した学習環境を実現しています。

このことにより、社会科の学習は従前の指導からさらに、児童が自分で学びを進めていく問題解決的な学習に変化しています。

そのため、これからの社会科の教科用図書は、児童が学習課題を見だし、学習を進めていく学びのプロセスが明確であり、一人一人の興味・関心に基づき、学びを深めていくことができる工夫がなされたものであるとよいと考えます。

○深澤委員

次に、図画工作の教科用図書について質問します。新設が予定されている「おおたの未来づくり」が目指す創造的な資質・能力の素地を養う教科書に求められるものは何かということについて質問いたします。

○細田指導課長

令和7年度から、小学校第5・6学年で学習することを予定しております区

独自教科「おおたの未来づくり」における学習を充実させるためには、第1学年から第4学年までは、各教科等の学習を通して、創造的な資質・能力の素地を計画的に養う必要があります。

図画工作科の特質を踏まえると、アイデアを生み出す方法が分かりやすく示されていること、タブレット端末を活用した表現活動や協働しながら取り組む活動が豊富に示されていることが求められると考えます。

また、第5・第6学年では、各教科の時数を合計20時間削減して、「おおたの未来づくり」の授業時数にあててることを予定しています。このため、教科「おおたの未来づくり」の指導内容であるものづくりや地域の創生、ICTの活用とプログラミングによる制御に関連する単元や、総合的な学習との関連的な指導が可能な単元が明確に掲載されていると、各学校が特別の教育課程を編成しやすくなると考えております。

#### ○深澤委員

最後に、外国語の教科用図書について質問します。知識としての英語ではなく、外国に行って使える英語を子どもたちに身につけてもらうために、教科書に求められるものは何かについて質問いたします。

#### ○山本副委員長

はい、お答えします。グローバル化が急速に進展する現在の社会において、児童には英語によるコミュニケーション能力を育成し、積極的に英語を用いて、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする力を育成することが必要です。

そのため、これからの英語の教科用図書については、児童が明確な目的を見いだして英語で対話する場面を設定したり、英語を実際に使う必然性を感じたりしながら、簡単な挨拶や日常会話など、英語に慣れ親しむ学習に取り組むことができる問題解決型の学習活動を促すものが適切であると考えております。

#### ○深澤委員

ありがとうございました。

#### ○教育長

ほかにご質問はありますか。

#### ○北内委員

私からは、質問ではなくてコメントです。調査報告をありがとうございました。私自身も一通り教科書に目を通させてもらって、また、今日の調査報告を踏まえて、各教科についてコメントをさせていただきます。

最初に、国語に関しては、大田の子供たちが多様で複雑な社会を生き抜くためには、取り扱っている題材がバランスよく扱われている教科書が良いと思

ました。

次に、社会は日本の工業を支える大田区のまち工場など、児童が自分たちの住むまちに自信を持てる教科書が良いと思いました。

次、算数。児童たちには自分で考える力を養ってもらいたいと思っています。そのような工夫がなされた教科書を選びたいと思っています。

理科に関しても、算数同様、児童たちには自分で問題解決できる力を養ってほしいので、そのような工夫がなされた教科書が良いと思いました。

次に、生活。大田区の児童、特に低学年に関しては、地域や文化など親しみやすい教科書が良いと思っています。

音楽は、国際都市おおたにとっては、多種多様な価値観にも対応できる題材を取り扱っている教科書が良いと思います。

図画工作は、手元の様子が分かりやすい教科書が良いと思いました。

家庭科は、基礎的、基本的な技能が充実し、多様性に配慮された教科書が良いと思いました。

次に、保健。学習イメージが湧きやすい配慮がなされた教科書が良いと思いました。

英語、これからの日本を背負う国際都市おおたの子どもたちには、コミュニケーションと世界に発信できる日本の情報に配慮された教科書が良いと思いました。

最後に道徳。多種多様な価値観がある中で、道徳の教科書はクラスみんなで考え、意見を出しあえる配慮がなされた教科書が良いと思いました。

## ○教育長

ありがとうございました。

それでは、これにて教科用図書調査委員会からの報告を終了いたします。

なお、この報告を受けまして、審議、採択につきましては、8月8日火曜日の定例会及び9日水曜日の臨時会において行う予定です。また、8月10日木曜日は予備日ということで予定しております。既に委員の皆様には教科用図書をご覧いただき、研究していただいているところでございますけれども、本報告書を参考に、さらなる調査研究を進めていただくようお願いいたします。

それでは、次の日程に移ります。

日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

## ○事務局職員

日程第2は、議案審議です。

本日は、第26号議案のご審議をお願いします。

それでは、議案を読み上げます。

第26号議案 令和4年度おおた教育ビジョンの事業実績と評価について  
以上です。よろしくをお願いします。

○教育長

それでは、ただいまの議案につきまして、事務局職員の説明を求めます。

○教育総務課長

私からは、第 26 号議案 令和 4 年度おおた教育ビジョンの事業実績と評価について、ご説明させていただきます。

本区の教育の重要施策を取りまとめたおおた教育ビジョンでは、その実効性をより高めるために、毎年事務事業の進捗状況を点検、評価することとしております。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条において、教育委員会は教育に属する事務に関する点検及び評価を行い、公表することが義務づけられていることから、この度報告書として取りまとめたものでございます。

早速資料をご覧いただきたいと思いますが、報告書（案）のまず 1 ページをご覧ください。

おおた教育ビジョンのプラン 1、未来社会を創造的に生きる子どもの育成【未来】の 24 事業について評価を行い、全ての事業において B となっております。

次、2 ページは、おおた教育ビジョンの概要です。

次、3 ページから 8 ページにつきましては、11 の指標に基づきまして、成果・課題等を整理してございます。

その次、9 ページ以降です。「評価事業」実績・評価一覧でございます。プラン 1 を実現するための主な取組である 24 事業の実績、成果・課題、今後の方向性をお示ししております。

なお、新型コロナウイルス感染症等の影響により、変更が生じた事業につきましては、代替の取決めによる成果について評価をしてございます。

最後に、18 ページからでございますが、有識者の意見としまして、元跡見学園女子大学教授の堀内一男様からご意見をいただいております。教育委員会として、真摯に意見を受け止め、今後の施策展開に反映してまいりたいと考えております。

本定例会でご決定をいただきましたら、8 月 15 日開催予定のこども文教委員会にて報告後、ホームページでの公表、併せて、校長会での報告を予定してございます。

○教育長

それでは、ただいまの報告に対しまして、ご意見はありますか。

○三留委員

ただいま教育総務課長から、おおた教育ビジョンの事業実績と評価の話がございましたけども、評価事業の実績、評価一覧を見ると、大田区として様々な教育施策を行い、着実に事業が進んでいることを感じております。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた取組に関しては、補完する事業を行い、目標の達成に努めてきたのもよいと思われました。

成果指標のある事業については、コミュニケーション能力、情報活用力に関わる目標で、目標値を既に上回っております。「コンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集して自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる」と答えた児童・生徒の割合が基準値を大きく上回って、目標値も超えております。これについては、1人1台のタブレット型パソコンの積極的な活用を各学校で進めてきた成果と考えております。成果指標のある他の項目についても、最終年度の今年度に達成できるよう、取り組みを進めてもらいたいと思っております。

学識経験者の堀内先生からは、「コロナ禍の制約を受けながらも、各学校の着実な実践の積み重ねにより、成果を高めている」という評価をいただきました。それとともに、教科の基礎、基本の重視、地域の学校としての躍進などについて、一層期待する意見が寄せられております。こうした意見を踏まえて、令和5年度の取組を行うとともに、新おおた教育ビジョンの策定を進めてほしいと思っております。

#### ○教育長

ほかにございますか。

#### ○深澤委員

令和4年度のおおた教育ビジョンの事業実績と評価を拝見して、有識者意見の堀内先生がおっしゃっていたところに私は共感いたしました。

令和4年度は、まだコロナ禍により、様々な活動が制限されていた時期ではありましたが、そのような環境下で、生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた生徒の割合が増加したこと、自分にはよいところがあると答えた児童の割合が増加したことは、未来社会を創造的に生きる子どもたちに必要なコミュニケーション力やともに生きる力が向上している子どもの割合が増加したと見ることができ、評価に値するものであるとともに、社会の中で生きていく人として核となる部分についての自己肯定感の向上は、学力の向上にもつながるものであり、今後の子どもたちのますますの成長を期待するものであります。

他方、理科の期待正答率を超えた生徒の割合、数学の期待正答率を超えた生徒の割合が、令和元年から始まったおおた教育ビジョンの中で最も振るわなかったという点は、有識者が指摘するように、教科学習の基礎・基本的な学習について見直すべき点が多いものと考えられますが、数字にとらわれることなく、このような結果となった分析をしっかりと、今後の改善に役立てていただきたいと思えます。

英語については、英検3級以上を取得している生徒の割合が増えてきています。コロナの影響で中止になっていた中学生生徒海外派遣が今年度から再開す

る予定になっており、令和5年度は、おおた教育ビジョン締めくくりの年として、子どもたちが未来に向かって国際的に飛躍できることを願っております。

○教育長

ありがとうございました。ほかにありますか。

○高橋委員

新型コロナウイルス感染症の影響により、補完版を作成し、タブレット端末を早い時期に対応するなど、適切な対応がなされ、評価の判定はBでしたが、今後に生かせるものではないかと思えます。

以下、コメントを發表します。プラン1の英語検定3級以上を取得している生徒の割合ですが、補習教室での基礎・基本の確実の定着のほか、英語活動の充実など、指導の効果がした結果だと考えます。評価事業の5で、外国語教育指導員を有効に活用してほしいと思えます。私は、外国語の授業参観を見たことがございますが、そのときには、補助としての役割をしていたので、実際の活動している様子を今後見てみたいと思っております。

次に、理科の期待正答率を超えた生徒の割合ですが、令和3年度より4.8ポイント減少は残念ですけれども、小学校理科指導専門員を増員したことで、指導力向上を期待しています。

次に、コミュニケーション能力ですが、タブレット端末を活用することで、主体的、対話的、協働的な学びができ、よい結果が出たと考えます。

プラン3、自分にはよいところがあるという項目ですが、キャリアパスポートの活用とともに、教職員、保護者、地域の中で認められる経験が大事だと思っております。

プラン4の体力ですが、運動が楽しいと思えなくては、体力の向上は図れないと思えます。運動が苦手な子どもも体育が好きと思える取組が今後とも必要だと思っております。

プラン5、分かりやすい授業、これは教育の基本だと考えます。

プラン6、地域の行事です。コロナ禍では行事もできなかったけれども、徐々にイベントが開催されてきています。これからは、周知が重要と考えます。きちんと保護者、子どもたちが把握して、参加してくれることを願います。

評価事業の1、2、3の漢字検定、作文指導、読書活動、これは基本の学習です。読書学習司書の活用などにより、推進されるよう期待します。

10、11のものづくりについては、多くの子どもたちが参加できるようにこれからもお願いしたいと考えます。

16、24の道徳、体育・健康授業地区公開講座は、保護者、地域の方の参加により意識が高まり有効です。これからの開催に期待しています。

○教育長

ありがとうございました。ほかにご意見、ご質問はありますか。



○北内委員

まず、令和4年度おおた教育ビジョンの事業実績と評価について、かなり高いレベルで達成してくださったのかなと私は感じています。この場をお借りして、特に現場の先生方が、この激変する社会環境の中で大変頑張ってくださいましたと思います。まずはお礼申し上げます。ありがとうございます。

その上で、また新ビジョンのもとで、質の高い教育を大田の子どもたちのために実践していただきたいと思っています。

○教育長

ありがとうございました。ほかにご意見はありますか。

○弘瀬委員

実効性を高めるための評価を毎年行なっていることについては、素晴らしい事業だと思っています。特に新型コロナウイルス感染症の中で、通常のやり方で評価ができないとわかった時点でそれに変わる別の方法で子どもたちの評価を見る。それも早期に考えて実行してくださったことについて感謝申し上げます。

未来を担う子どもたちが、豊かな人間性を育み、未来をつくる子どもたちのますますの成長をこれからも楽しみにしたいと思います。そのために今後もご尽力いただければと思っています。よろしく願いいたします。

○教育長

ありがとうございます。

それでは、原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長

それでは、第26号議案について、原案のとおり決定いたします。

これをもちまして、令和5年第7回教育委員会定例会を閉会といたします。

(午後3時40分閉会)

令和5年 第7回 教育委員会 定例会 7月21日(金) 午後2:00～

大田区民ホール・アプリコ 展示室

<令和6年度使用小学校教科用図書調査委員会からの報告>

<部課長の報告事項>

教育総務部長

参事（教育施設担当）

教育総務課長

教育施設担当課長

副参事（教育地域力担当）

副参事（施設調整担当）

学務課長

指導課長

指導企画担当課長

学校支援担当課長

教育センター所長

幼児教育センター所長

大田図書館長

<議案審議>

第26号議案 令和4年度おおた教育ビジョンの事業実績と評価について

令和5年7月21日

令和5年第7回教育委員会定例会日程

日程第1 令和6年度使用小学校教科用図書調査委員会  
からの報告

日程第2 議案審議

第26号議案 令和4年度おおた教育ビジョンの事業実績と評価に  
ついて

# —報告書—

令和6年度使用大田区立小学校教科用図書に係る教育委員会からの依頼に基づき、以下のとおり報告いたします。

令和5年7月21日  
教科用図書調査委員会

## 教科用図書調査委員会報告

令和6年度使用大田区立小学校教科用図書に係る調査委員会を以下のように開催し、協議した。

- 第1回委員会 令和5年5月12日（金）16：00～17：00
- 第2回委員会 令和5年6月30日（金）14：00～17：00
- 第3回委員会 令和5年7月5日（水）14：00～17：00

本委員会では、第1回委員会において資料作成委員会に資料作成依頼をし、第2回委員会において報告を受け、委員一人一人がそれぞれの教科用図書を調査し、各回に意見を持ち寄る形で協議を進めた。第3回は「資料作成委員会報告書」「学校意見」「区民意見」を資料として、慎重かつ活発に協議を行った。その内容の概要は、以下のとおりである。

- 1 調査対象の教科用図書は、文部科学省検定済みであり、内容面や人権上の配慮等については十分に検討されており、どの教科用図書が使用されても学習指導要領に示された教科の目標が達成できるという前提で協議した。
- 2 本委員会では、「資料作成委員会報告書」「学校意見」「区民意見」の三者を基礎資料にして、その妥当性を確認しながら、委員の調査資料に基づき、検定済み教科用図書についての特徴を整理した。
- 3 本委員会における調査は、大田区教科用図書採択要綱実施細目に示された「内容のおさえ方」「構成・分量」「表現」「使用上の便宜」の4つの観点から実施し、教育委員会における採択事務が適切かつ円滑に行われるよう、大田区の児童の実態を考慮しながら、客観的に報告できるよう努めた。
- 4 6月1日から6月30日までの期間中、教科書展示会場に、641名の区民の皆様に御来場いただくとともに、御意見をいただいた。また、学校意見は、小学校全59校及び館山さざなみ学校から出され、それぞれの教科用図書についての細かな意見が出されているので貴重な資料となった。教科指導の専門家としての見方を尊重しつつ資料作成委員会との整合性にも配慮しつつ、協議を進めた。

〈小学校〉

|     |    |
|-----|----|
| 種目名 | 国語 |
|-----|----|

○ 内容のおさえ方

「東書」は、学習の内容や学習の見通し、学習の流れが一目でつかむことができるよう工夫されている。「教出」は、言葉の文化として、ことわざ、慣用句、故事成語、十二支、落語、人形劇などを取り入れ、語彙や言葉の知識を増やす工夫がなされている。「光村」は、文章の内容理解に必要な図や表、写真や挿絵が、文章の内容に合わせて掲載されており、大きさ、数も過多ではなく適切に掲載されている。

○ 構成・分量

「東書」の各領域の平均配當時数の割合は、「知識・技能」11%、「話す・聞く」14%、「書く」35%、「読む」40%となっている。「教出」の各領域の平均配當時数の割合は、「知識・技能」18%、「話す・聞く」15%、「書く」34%、「読む」33%となっている。「光村」の各領域の平均配當時数の割合は、「知識・理解」10.5%、「話す・聞く」13.5%、「書く」37%、「読む」39%となっている。

○ 表現

「東書」は、掲載してある挿絵や資料が大きく、目を引くものとなっている。「教出」は、活字は教科書体で、巻末の漢字一覧は硬筆の教科書体となっている。「光村」は、掲載してある挿絵や資料が教材文の内容に応じた物や資料、風景や登場人物の表情となっており、文章から想像したり、文章の補足となっていたりしている。

○ 使用上の便宜

「東書」は、二次元コードが他社よりも多く第4学年で111点である。内容は、言葉の力、小学校で習う漢字、練習問題、動画やアニメーションでの言語活動の見通し、個別最適な学びに向いている。「教出」は、各学年の上巻に掲載されている「ひろがる読書の世界」で、読書クイズや読書マップなどが提示されており、幅広いジャンルの本を知る手掛かりとなる工夫がされている。「光村」は、国語の学び方、1年間の見通しと既習事項の確認がすぐに確かめることができるページがブックインブックという形で掲載されている。

○ その他

学校意見では、「光村」に肯定的な意見が多い。

〈小学校〉

|     |    |
|-----|----|
| 種目名 | 書写 |
|-----|----|

○ 内容のおさえ方

「東書」は、鉛筆の持ち方で、右利き、左利きの持ち方、構え方の写真が同サイズで載っている。「教出」は、身に付けた書写の力を学習活動のどの場面で生かせるのかが分かる教材を「レッツ・トライ」で示し、他教科と連携した指導ができるようになっている。「光村」は、鉛筆の持ち方は、写真とイラストの2つが載っており、イラストは自分が鉛筆を持った手と比べられるようになっている。

○ 構成・分量

「東書」の毛筆手本数は、第3学年9教材（うち書初2）、第4学年9教材（うち書初2）、第5学年7教材（うち書初2）＋小筆1教材、第6学年7教材（うち書初2）＋小筆1教材となっている。「教出」の毛筆手本数は、第3学年9教材（うち書初2）、第4学年11教材（うち書初2）、第5学年9教材（うち書初2）、第6学年10教材（うち選択4書初2）＋小筆1教材となっている。「光村」の毛筆手本数は、第3学年12教材（うち書初4）、第4学年11教材（うち書初4）、第5学年10教材（うち書初4）、第6学年9教材（うち書初4）＋小筆1教材となっている。

○ 表現

「東書」は、左払いと右払いの筆圧の違いが赤から黒の色のグラデーションで示されている。「教出」は、手本の前もしくは次のページには朱書き字のポイントや解説などが豊富に示されている。「光村」は、毛筆のお手本は左ページで統一されており、手本には初めの一画目や書くときのワンポイントが示されている。教科書を2つ折りにして使うときに児童が字を書く際の手助けになっている。

○ 使用上の便宜

「東書」は、具体例から学べるよう、子どもたちが書いてしまいそうな文字と整った文字を比較できるように示されている。「教出」は、国語教材を書写で視写することで内容を深く味わうとともに、豊かな言語感覚を養うなど国語力育成のために「言葉」「活用」「文化」の観点で教材化している。「光村」は、補助教材として二次元コード総コンテンツ数363点で、他の教科書と比べると一番多く載せられている。内訳は動画101点、アニメーション8点、写真222点、補充教材27点、参考資料5点となっている。

○ その他

学校意見では、「光村」に肯定的な意見が多い。

〈小学校〉

|     |    |
|-----|----|
| 種目名 | 社会 |
|-----|----|

○ 内容のおさえ方

「東書」は、第5学年「これからの工業生産とわたしたち」に、大田区のまち工場が事例地として掲載されている。また、「工業生産を支える運輸と貿易」に、京浜トラックターミナルが掲載されている。「教出」は、第4学年の「廃棄物を処理する事業」に、大田区の清掃工場や埋め立て処分場が掲載されている。第5学年の「運輸の働き」に、大田区のトラックターミナルが掲載されている。「日本の工業生産の特色」では、大田区の中小工場が掲載されている。「日文」は、第4学年の学習資料「下水のしよりと再利用」に、森ヶ崎水再生センターが掲載されている。

○ 構成・分量

「東書」は、第3・4学年は合冊、5年は「上」「下」で分冊、6年は「歴史編」「政治・国際編」で分冊となっている。「教出」「日文」は、全学年とも合本となっている。「東書」は、学習過程が全ての学年で、「つかむ」「調べる」「まとめる」（「いかす」）で構成され、学習を進める上での学びの手順を明確に示している。「教出」は、第5学年で児童一人一人が資料を選び、「ポイント」を手がかりに読み取る「自分で調べて考えるページ」を設け、学習の活性化を促している。「日文」は、関係があると思ったSDGsシールを貼ったり、自分で考えたりするページがあり、SDGsを自分ごととして捉えられるように工夫している。

○ 表現

「教出」は、キャラクターが男女3人ずつ登場している。そのうち1人は外国人であり、もう1名は車いすに乗っている。「東書」は、キャラクターが日本人の男女3名ずつ登場している。疑問符や感嘆符を用いることで、分かったことや疑問に思ったことを区別している。

○ 使用上の便宜

「東書」は、各単元で二次元コードを読み取って使用するコンテンツを用意し、動画やクイズを見ることができるようになっている。また、ワークシートやデジタル資料も掲載されている。「教出」は、「まなびリンク」という学習に役立つデジタル・コンテンツにつながる二次元コードが示してあり、インターネットを活用した学習ができるようになっている。「日文」は、二次元バーコードを読み取って使用するコンテンツを用意し、「見方・考え方」のアドバイスやコラム（学習に役立つ資料）の詳細を載せている。また、ワークシートをWord形式とGoogleドキュメント形式の2種類を用意している。

○ その他

学校意見では、「東書」に肯定的な意見が多い。



〈小学校〉

|     |    |
|-----|----|
| 種目名 | 地図 |
|-----|----|

○ 内容のおさえ方

「東書」は、「首都東京」の5万分の1の地図で3ページの大きさの中に、大田区の蒲田付近、羽田空港まで掲載されている。「帝国」は、「日本の首都・東京」の5万分の1の地図には大田区は掲載されていないが、「東京都とそのまわり」という20万分の1の地図には大田区の地名とまち工場のイラストが掲載されている。「東書」「帝国」ともに、領土問題に関して、東西南北の端にある地域4か所を写真入りで説明している。「東書」は、日本の周りの国は、国旗を用いて5か国掲載している。国の領土と海について説明している。「帝国」は、日本固有の領土である、北方領土、竹島、尖閣諸島の写真を掲載し、周りの国は国旗を用いて14か国掲載している。国の範囲と領土について説明している。

○ 構成・分量

「東書」は、第3学年の地図の導入として、「空からまちをみてみよう」で、地図は地表を上から見たものであることを表している。「地図のきまり」「地図帳の使い方」が計8ページ掲載されている。「帝国」は、第3学年の地図の導入として、「地図の世界へようこそ」というタイトルで地図についての説明が14ページあり、「地図は土地の様子を上から見たもの」や「地図帳の使い方」などが掲載されている。

○ 表現

「東書」は、巻頭の世界地図に、第3学年の外国語活動でも使えるように「世界のありがとう」が掲載されている。15か国の国旗と国名と言語、人物が表されており、登場人物は民族衣装を着ている。「帝国」は、巻頭の世界地図に、第3学年の外国語活動でも使えるように「世界のこんにちは」が掲載されている。11か国の国旗と児童が表されており、登場人物は民族衣装やスポーツをしている姿で表している。

○ 使用上の便宜

「東書」は、二次元コードを読み取ることで、白地図、外部サイトへのリンク、ドローン動画やクイズ、到達度を計るための「がんばりシート」などが活用できる。児童が自分で地図を読み取ったり、作業をしたりするための問題「マップでジャンプ」コーナーが70個ある。「帝国」は、二次元コードを読み取ることで、より詳しい情報が掲載しているサイトや白地図とワークシートを利用できるようになっている。サイトは資料や動画を掲載している。また、クイズ形式の「トライ」を11問、学年別の「地図マスターへの道」を100問配し、地図の読取に活用できる。

○ その他

学校意見では、「帝国」に肯定的な意見が多い。

〈小学校〉

|     |    |
|-----|----|
| 種目名 | 算数 |
|-----|----|

○ 内容のおさえ方

「東書」は、学校や日常の生活を想記できるような場面を取り入れている。「大日本」は、「新しい学習がはじまるよ」という導入ページで既習事項とのつながりから学習が始められるようになっている。「学図」は、「つまずきやすいところ」「つまずきにくくする方法」を示した「算数パトロール隊」や、学習したことを分かりやすくまとめた「考え方モンスター」が設定されている。「教出」は、第6学年「並べ方と組み合わせ」ではピアノの鍵盤を用いたドレミ3音の組み合わせ方、第4学年「2けたの数のわり算」では、折り紙の冠を示し、算数以外の学習と関連付けやすい導入にしている。

○ 構成・分量

「東書」「大日本」「日文」は、単元の最初の課題が右ページにあることで、児童が、まずは、「自分で考える」ことから学習が始められる工夫がある。「啓林館」は、巻末の「学びのサポート」の中に既習確認のための「じゅんび」がまとまっており、単元の導入時にアクセスできるようにしている。「日文」は、単元末に3段階の補充問題、巻末に習熟度別の補充問題がある。

○ 表現

「東書」「大日本」「学図」「教出」「啓林館」「日文」は、全学年で書き込み形式をとっている。

「啓林館」は、第4学年の「垂直・平行と四角形」で、垂直な直線の描き方や平行な直線の描き方が実際の写真で示されており、直線の描き方が順序だてて、分かりやすく、掲載されている。

○ 使用上の便宜

「東書」「学図」は、第6学年のみ、「教出」「啓林館」「日文」は、第5・6学年、「大日本」は、第2～6学年を合本にしている。

「東書」「大日本」「啓林館」は、第1学年の1分冊を大判化し、入門期に、児童が数をかぞえて書くことやブロックを使った数学的活動をしやすくしている。

「大日本」「学図」「啓林館」「日文」は、全学年でプログラミング学習に関するページを設けている。「東書」は、第5、6学年でプログラミング学習に関するページを設けている。「教出」は、第1、2、4、5学年でプログラミング学習、第3、6学年で表計算ソフトを活用した学習のページを設けている。

○ その他

学校意見では、「東書」に肯定的な意見が多い。

〈小学校〉

|     |    |
|-----|----|
| 種目名 | 理科 |
|-----|----|

○ 内容のおさえ方

育てたい資質・能力について、「教出」は、各単元末にある「たしかめよう」で、基本的な問題を掲載して、発達段階に応じて必要な知識・技能が身に付くようにしている。「大日本」は、各単元末に知識・技能の定着を図る問題や活用する力を育てることができる問題を掲載し、巻末に全国学力・学習状況調査の分析結果に基づく課題を意識した問題を扱っている。自然の事物・現象との結びつきについて、「啓林館」は、各単元に、「理科の広場」または「くらしとリンク」が掲載されており、理科と実生活との関わりを紹介している。「学図」は、各単元末に、「もっと知りたい」という見だしで、学習内容と暮らしや技術とのかかわりについて掲載している。

○ 構成・分量

構成・分量について、「教出」は、問題解決の力や学習内容を確認できるように、「見方のカギ」「考え方のカギ」という見だしで、理科の見方・考え方を紹介している。「学図」は、学年の発達段階に応じた学び方を、「理科モンスター」という様々なキャラクターを使って紹介し、各単元において身に付ける力を意識しながら学習を進められるようにしている。

○ 表現

「教出」は、全ての単元で「見つけよう」という見だしで、自然の事物・現象から問題を見だし、問題解決の学習過程に沿って学習を進め、学習後に「ふり返ろう」「たしかめよう」で知識・技能の定着を図る、一貫性のある学習活動を計画している。「東書」は、各ページの左側に「学びのライン」を矢印で示し、問題解決の学習過程を見取りやすくしている。

○ 使用上の便宜

「大日本」では、各ページの下部に二次元コードを配置し、学習に関連する映像資料などの学習コンテンツ（全1175）へ、スムーズにアクセスできるようにしている。「東書」では、二次元コードからアクセスできるコンテンツの総数は、第3学年約220個、第4学年約250個、第5学年約230個、第6学年約260個と、「大日本」に次いで豊富に用意している。「啓林館」では、プログラミング的思考を育む教材を多くの単元で紹介している。

○ その他

「教出」では、第6学年「土地のつくり」の単元に、「地震の強いゆれにたえられるように補強した校舎」という見だしで、133ページに東京都大田区を紹介している。

学校意見では、「大日本」に肯定的な意見が多かった。

〈小学校〉

|     |    |
|-----|----|
| 種目名 | 生活 |
|-----|----|

○ 内容のおさえ方

全者が上巻冒頭にスタートカリキュラムを記載している。「大日本」と「啓林館」は、教科書へ書き込めるページがあり、プリントの整理が苦手な児童にとって記録を残しやすい。「教出」は、学習の始まりが「わくわくスイッチ」という、どの児童にも当てはまる選択肢を選んでいくスタイルで、児童の経験や期待感から単元を始められる工夫がされている。

○ 構成・分量

「東書」は、他教科で身に付けた資質・能力を生かす場面を、教科名を明記して具体的に例示している。中学年以降への接続として絵地図、鳥瞰図や自然の規則性・多様性につながる見方、考え方の例示が掲載されている。「大日本」は、町探検の学習を春と秋に分け、その間の関わりも含めて、秋に発展的に学習を深めていけるなど、時間の経過と児童の成長を考慮して構成されている。「啓林館」は、「わくわく・いきいき・ぐんぐん」の3段階に分けて構成されていて、学びが繰り返し深まるようになっている。

○ 表現

「東書」は、小単元のページに教師の発問例と評価規準を示すマーク（「！」知識・技能、「？」思考・判断・表現、「♥」主体的に学習に取り組む態度）が明示してあり、教師が指導と評価の一体化が目指せるように工夫してある。「学図」は、上巻の学校探検の単元では、「理科室にもう一度行ってみよう」と記述するなど、児童が繰り返し対象と関わってもよいことに気付けるよう配慮されている。伝え合いの学習のページでは、学習者が話す言葉の冒頭だけが記され、児童がそれを手掛かりにできるよう配慮されている。「光村」は、「こんなこともあるかもね」「こんなのもいいかもよ」などのタイトルで、児童の学習過程や実生活の中で生じうる気付きや失敗、困り感を取り上げた絵本作家の方の漫画がある。児童が楽しみながら考えを深めることができるようになっている。「啓林館」は、「六郷のどんびだこ」、「蒲田警察署」、「大田区の児童館」の写真が載っており、大田区の児童にとって親しみやすい。

○ 使用上の便宜

「光村」は、各見開きページの右下の「ふりかえろう」に、振り返りの視点のほか、「こんなことはあったかな」として、振り返りのきっかけにしやすい活動のヒントが示されている。「教出」は、生活科で学んだ力をどうつなげるのかについて、総合的な学習の時間、外国語活動、理科、社会科を例に出してまとめている。生活科で学びが完結するのではなく、次の学年に向けての見通しがもてる工夫がされている。「東書」は「かつどうべんりてちょう」や「生きもの図かん」、「大日本」は「がくしゅうどうぐぼこ」、「学図」は「学び方図かん」、「教出」は「学びのポケット」、「光村」は「ひろがるせいかつじてん」（取り外して使用）、「啓林館」は「びっくりずかん」、「がくしゅうずかん」など、巻末や単元の間に資料ページが掲載されている。全者とも二次元コードのコンテンツを使ってさらに豊富な資料を閲覧することができる。

○ その他

学校意見では、「啓林館」に肯定的な意見が多い。

〈小学校〉

|     |    |
|-----|----|
| 種目名 | 音楽 |
|-----|----|

○ 内容のおさえ方

「教芸」は、見通しをもって活動できるように、題材のねらい、学習活動、学習の流れが見開きで示されている。「教出」は、各題材の「めあて」の内容と、扱う音楽を形づくっている要素「音楽のもと」を関連付けて学習内容を示している。

○ 構成・分量

「教芸」は、全題材が異なる領域・分野で順序立てて系統的に構成されている。巻末には、楽曲が7～11曲掲載されており、題材によって教材を差し替えて、学習を深めることができるようになっている。「教出」は、一題材で扱う教材を絞り、題材で取扱う要素に着目できるように重点化している。児童の発達の段階を考慮して、無理なく取り組めるような楽曲が選出されている。

○ 表現

「教芸」は、題材ごとに色分けされているので、まとまりが分かりやすくなっている。また、題材の目標や学習活動などの記載の仕方が一貫しており、どの題材も見通しをもって学習に取り組むことができる。「教出」は、重要な言葉を色分けし、めあてを明確にしている。また、見開きや折り込み写真により、曲想や歌詞の表す情景を捉えやすくしている。

○ 使用上の便宜

「教芸」は、各学年の巻頭の「学習マップ」で、1年間でどのような学習をするのかが視覚的に分かりやすく示しており、学習全体の構成や見通しがもてるように工夫されている。「教出」は、学習のめあての重要な言葉を大きくしたり、文中の改行位置を調整したりするなど、特別な支援を必要とする児童への配慮がなされている。

○ その他

「教芸」は、鍵盤ハーモニカの写真を1オクターブ約10センチで掲載し、運指の仕方はイラストで示している。一方で「教出」は、鍵盤ハーモニカの写真を1オクターブ約13センチという実寸に近いサイズで掲載し、運指の仕方は実際の手の写真で示しているため、鍵盤ハーモニカの学習は、「教出」の方が分かりやすい。「教芸」は、教科書右上に6年間で約370項目の二次元コードを記載している。「教出」は、掲載場所はさまざまに6年間で約70項目の二次元コードを記載している。個別最適な学びのサポートとしてのコンテンツは「教芸」の方の数が多く、種類も豊富である。

学校意見では、「教芸」の方が肯定的な意見が多い。

〈小学校〉

|     |      |
|-----|------|
| 種目名 | 図画工作 |
|-----|------|

○ 内容のおさえ方

育てたい資質・能力について、「日文」は、学習のめあてを具体的に示し、吹き出しや作品に付したコメントで、児童の考えや発想・構想のプロセスが示されている。「開隆堂」は、学習のめあてを簡潔に示し、重要視する項目を赤字で強調するとともに、その項目に関して、学習を深めるポイントやヒントをキャラクターの吹き出しで示されている。

○ 構成・分量

「開隆堂」は全題材のうち「工作」が36%程度、「造形遊び」が10%程度、「日文」は全題材のうち「工作」が17%程度、「造形遊び」が20%程度と、題材の内容が占める割合に特徴的な違いがある。構成の特徴として、「開隆堂」は、題材ごとに「あわせてまなぼう」という形で、他の教科との関連性が具体的に示されている。「日文」は、表現と鑑賞を一体的に扱える設定となっている。

○ 表現

「開隆堂」は、写真やイラストを大きく掲載するとともに、活動の手順通りに並べ、枠線の中にまとめて表してあり、仕組みのつくり方や技法などが分かりやすく示されている。「日文」は、手元のアップ写真が多く掲載され、題材内容が視覚的に理解できる。また、「日文」は、「環境」「安全教育」「言語活動」「防災」「SDGs」等、今日的な諸課題への対応を考えた資料が掲載されている。

○ 使用上の便宜

「開隆堂」は、デジタルコンテンツの活用方法について、マークで分かりやすく示している。また、大田区の児童に身近な西六郷公園がSDGsの教材として取り上げられている。「日文」は、アニメーション、鑑賞などの題材と関連付けたアプリケーションが、活用しやすい形で用意されている。また、5事例のプログラミング活動を掲載している。

○ その他

「開隆堂」の児童の写真は一貫してマスクを外しているが、「日文」の児童の写真はマスクをしているものが多い。児童の表情は開隆堂の方が分かりやすい。学校意見では、「日文」の方が肯定的な意見が多い。

〈小学校〉

|     |    |
|-----|----|
| 種目名 | 家庭 |
|-----|----|

○ 内容のおさえ方

「東書」は生活時間の学習において、「朝食の役割」について学んだ後、炒める調理を学習することで実践につなげる流れは、本区で定める「早寝・早起き・朝ごはん」月間に関連している。「開隆堂」は、「いためる調理」の学習の後に「朝食の必要性」を学習する流れになっており、学んだことを生かして自身の生活を見直す流れとなっている。

「開隆堂」は、キャリア教育との関連については、各単元に学習内容と密接につながる職業の方々からの「キャリア・インタビュー」が掲載されていることに加え、SDGs との関連を加えた特集ページを巻末に設けている。「東書」は家庭科に関連する職業の人へのインタビュー記事「プロに聞く」を10か所にわたって掲載し、仕事や生活への興味が高まるよう工夫している。

○ 構成・分量

「東書」は、二次元コードの読み取りによるデジタルコンテンツは動画、実習シート、活動「深めよう」で使えるワークシートから構成されている。また、「トイシート」という名称で思考ツールが各題材に収録している。「開隆堂」は二次元コードの読み取りによるデジタルコンテンツは動画コンテンツ、記入カード、資料PDF、その他の視覚資料から構成されており充実している。

○ 表現

「開隆堂」は、基礎的・基本的な技能のポイントが、巻末に見開きで掲載されている。また、「開隆堂」はイラストの人物表現について、多様性を受容し共に生きる社会づくりへの配慮をしている。「東書」は、玉留め、玉結びにおける失敗例が写真で示されており、児童が自身の技能を客観視し主体的に技能の向上ができるよう工夫している。また、「東書」は巻頭に安全に関する資料が充実しており、基礎的・基本的な技能の大切なポイントは、巻末の「いつもたしかめよう」の部分にまとめている。

○ 使用上の便宜

「開隆堂」は、題材の提示順に柔軟性があり、各学校や児童の実態に応じて年間指導計画を設定しやすい工夫をしている。「東書」の巻頭にある「成長の記録」は、家庭科という教科のガイダンスで活用できるとともに、各題材の学習後に記入することで2学年を通したポートフォリオとなる。

○ その他

「開隆堂」は、学習者用タブレット端末も用いた学習活動を例示するイラストや写真が多く示されており、2年間を通じた活用を促す表現となっている。学校意見では、「開隆堂」の方が肯定的な意見が多い。

〈小学校〉

|     |    |
|-----|----|
| 種目名 | 保健 |
|-----|----|

○ 内容のおさえ方

「東書」は、單元ごとに資料を記載しており、発展内容や身に付けると役立つスキルをまとめている。「大日本」は、単元の最初のページに何について学習するのかを記載している。「大修館」は、単元の扉ページに著名人の写真やインタビューを大きく掲載しており、児童の関心を惹きやすくしている。「文教社」は、イラストで思春期の体の変化を表している。「光文」は、単元の最初のページに課題等を4コマ漫画で記載している。「学研」は、各小単元の導入のページに児童の生活に即した大きい写真を使用し、学習のイメージが湧きやすいようにしている。

○ 構成・分量

「東書」は、小単元を4～7ページで構成している。「大日本」は、各小単元を2ページもしくは4ページの構成にしている。「大修館」は、各小単元を偶数ページの構成にしており、見開きで使用できるようにしている。「文教社」は、各小単元を第3・4学年3～5ページ、第5・6学年を4～5ページの構成にしている。「光文」は、各小単元を2ページもしくは4ページの構成にしており、見開きで使用できるようにしている。「学研」は、小単元を4ページ構成で統一している。

○ 表現

「東書」は、単元の始めにスタートから目標（ゴール）までの道筋を示したイラストがあり、学習の見通しがもてるようにしている。「大日本」「光文」は、学習する内容、資料によって写真、イラストを使い分けている。「大修館」は、東京羽田ヴィッキーズ本橋菜子選手のインタビューを写真付きで掲載している。「文教社」は、各小単元の終わりに実生活を振り返る記述欄がある。「学研」は、担任、養護教諭からのコメントをイラストと吹き出しで記載したり、児童の思いをイラストと吹き出しで記載したりしている。

○ 使用上の便宜

「東書」は、目次に單元ごとのまとまりを大きく示し、学習に付随する資料を一覧にしてまとめている。「大日本」は、第3・4学年の巻末に第5・6学年に向けた目標を書く欄があり、第5・6学年の巻末に中学生に向けた目標を書く欄がある。「大修館」は、目次のほかに学習者用端末で見られるコンテンツを一覧にしている。「文教社」は、チェックボックスなどを用いている。

「光文」は、小単元ごとに背景の色を変えている。

「学研」は、1ページごとに記述する欄があり、考えをまとめていくうちに、単元を中心に触れることができるようにページを配列している。

○ その他

学校意見では、「学研」に肯定的な意見が多い。



〈小学校〉

|     |    |
|-----|----|
| 種目名 | 英語 |
|-----|----|

○ 内容のおさえ方

内容について、「三省堂」は、海外の文化についてはユニットごとに紹介されている。世界に発信できる日本の情報や、世界に目を向ける題材を通して外国語によるコミュニケーションの見方・考え方を働かせられるようにしている。「光村」では、単元の導入用にストーリーアニメが設定されており、児童が興味・関心をもってコミュニケーションの目的や場面、状況を理解できるようになっている。

「教出」は、地図記号、特産品、世界遺産、手話など他教科と関連した内容があり、学習の幅を広げやすくなっている。世界に目を向けることができるように、ほとんどの単元に世界に関連した内容が掲載されている。

○ 構成・分量

「開隆堂」は、問題に取り組みながら理解を深めるようになっている。6年生の最後の学習内容が“My Dream.” “My Junior High School.” になっていて、児童は学習を進めながら中学校への希望をもてる構成になっている。「東書」と「啓林館」では、Can-Do リストが別冊の巻末にあり、児童が習得すべき知識・技能、ねらいとしている思考・判断・表現の能力が児童自身でチェックできるようになっている。「教出」は、5年生で Lesson が進むごとに自己から自国・他国へと目が向くようになっている。6年生では自国から他国へ視野を広げ、将来の夢や中学を展望する順序となっており、2学年で系統性を踏まえた内容構成になっている。

○ 表現

「三省堂」は、見開き2ページのなかに、1単位時間の学習活動が進められるように簡潔に表現されている。小見出しや児童への言葉がけについては、色、フォント（手書き文字フォント）が統一されていて捉えやすい。「開隆堂」は、1ページの中に、1単位時間の学習活動が進められるように簡潔に表現されている。

○ 使用上の便宜

「啓林館」は、各ユニットの最初の2ページは、そのユニットで定着させたい語句が並べられ、児童は、これからの学習を予想できる。また、各ステップのゴールも同じページに示されている。「東書」のデジタル教科書では、紙媒体の教科書にはない振り仮名付きの紙面やマーカー等、学習者が使いやすくなるユニバーサルデザインの工夫がされている。

○ 学校意見では、「三省堂」に肯定的な意見が多い。

〈小学校〉

|     |    |
|-----|----|
| 種目名 | 道徳 |
|-----|----|

○ 内容のおさえ方

「東書」では、第6学年の自然愛護の教材には、大田区民になじみのある多摩川が取り上げられている。「教出」では、近年あらゆる分野で活躍する方々や偉人についての教材が多く掲載されている。「日文」では、「ウィルスとの戦い」として、新型コロナウイルス感染症に取材した教材が掲載されている。また、「貝塚博士」は、千葉県に加曽利貝塚を題材とした教材で、導入や終末の段階で、大田区にある大森貝塚を想起させるなど、学びをふかめることができる。「学研」では、詩や漫画、ページ全体を使った写真などで表現した教材が多く取り入れられている。

○ 構成・分量

「教出」では、教材の30番までで全内容項目が扱えるようになっており、残り5つ（第1学年は4つ）は補充教材として載っている。「光文」では、各学年で、「みんなでやってみよう」として、行動の指導につながる内容が掲載されている。6年生では、ナイスリターンとして、互いが納得するために相手が傷つかないように自分の主張を話す方法についてロールプレイする構成になっている。

○ 表現

「光村」では、2年以降の最初の教材が、「道徳が始まるよ」として、オリエンテーションを行えるようになっている。3年生以降のその次の教材には、「どうとくの学び方」として教材文を読みながら学び方を把握できるようになっている。

○ 使用上の便宜

「東書」では、最後のページに、心情メーター（ものさし・円）、イメージマップ等の思考ツールが示されている。心情円は、切り取って使うことができるようになっている。「光村」では、低学年、中学年はシールを貼る形、高学年は内容を記述する形で、すべての学年に1時間ごとの学びを記録するページがある。「日文」では、道徳ノートと教科書が分冊になっており、ノートには、発問などは掲載されておらず、教師の指導観に即して発問を記入したり、作成したワークシートを貼付したりすることができる。ノートは、ポートフォリオとして児童の記録及び教師の評価に活用することができる。また、一人一台端末で意見を共有したり、提出したりすることができるデータが用意されている。

○ その他

学校意見では、「東書」に次いで「光文」に肯定的な意見が多い。